

3 学生の交流

九州沖縄地区高専からは、これまで北九州高専(制御情報工学科)と熊本電波高専(電子制御工学科、情報工学科)がシンガポールへ研修旅行を行っています。北九州高専ではリパブリックポリテクと、熊本電波高専ではテマセクポリテクと交流を行っており、熊本電波高専で実施している工場見学、講演会などの研修プログラムにはテマセクポリテクの学生も参加しています。この研修で学生の受ける印象は様々ですが、熊本電波高専生が研修後に書いた研修旅行の感想文において、次のように述べています。

「今回の交流で私が感じたことは、まず、自分の英語力のなさである。私は小学校4年生のころから英会話教室に通い始めて中学3年の終わりまで英会話を勉強してきた。また、高専に入ってから授業で普通に勉強していた。トータルで9年間英語を勉強してきたのである。これだけやっているのだからゆっくり話してもらえれば大体のことはわかるだろうと考えていた。しかしながら、現実とは違っていた。

TOEICのリスニングでさえちょっと難しいのに、シンガポールの人たちが何を言っているのかほとんど分からなかった。それと同時に自分が今まで学んできた英語は何だったのだろうか、少しへこんだ。しかし、私のバディであるマーカスは一生懸命話をしてくれたのでわずかながらだが理解できた。

また、テマセクの学校の敷地の広さ、建物の構造、設備のすばらしさには驚いた。とにかく広がった。私は方向感覚には自信があるのだが、初めて迷子というものを経験した。本当に圧倒された。完全に予想以上だった。

シンガポールでの1週間は内容も充実していてとてもいい経験になった。このことをこれからの勉強やこれからの将来のために活用していこうと思う。」

包括交流協定に基づきシンガポールのポリテクから九州沖縄地区への研修生受け入れも実現しています。2007年3月にはテマセクポリテクの工学系学生25名が熊本電波高専を、6月にはシンガポールポリテクの学生10名が大分高専をそれぞれ訪問し、交流を行いました。今後は、2008年3月にテマセクポリテクが熊本電波高専を、リパブリックポリテクが今秋にも北九州高専をそれぞれ訪問予定です。



図2. 研修初日の研修プログラム説明中

4 包括交流協定に基づく事業

2006年度に締結した包括交流協定に基づく事業として、2007年度には英語研修、工学教育研究会、ソフトウェアロボットコンテストの実施等を予定しています。

1 英語研修

シンガポールにおける英語研修は2006年にも行われ、14名(男子8名、女子6名)の参加者がありました。研修プログラムは11日間で

工場見学、現地校学生との交流会及び40時間の英語の授業でした。その際の学生の感想を作文から一部を抜き出して掲載します。「今回の英語研修では工場見学などもあり、そこで出会った方々は皆さん英語を話されていました。英語を話せないとコミュニケーションが取れません。英語は世界共通語だと体感しました。

今回の研修では、英語を学ぶだけではなく、英語を勉強する意味、自分の将来に向けての姿勢、様々なことを学ぶことができました。これからも自分の夢、自分の人生に向けて、様々なことを勉強していきたいと思います。

もう1つ忘れてはいけないことがあります。それは感謝の気持ちです。この研修では様々な人にお世話になりました。たくさんの人のおかげでとてもいい経験ができました。とても感謝しています。この気持ちを忘れずにこれからも進んでいきたいと思っています。」

2007年の英語研修は、60時間の英語の授業と昨年同様学生交流や企業訪問を計画して実施し、期間は8月18日から9月1日までの2週間で23名が参加しました。

2 国際工学教育研究会

これは包括交流協定に基づく事業の一つで、シンガポールのポリテクと日本の高専教職員に対して、先進的な教育の取り組みの事例報告、工学教育方法論、工学教育のイノベーションを議論する場を提供するものです。今年が第一回目で、9月19日から21日までの3日間に渡り、シンガポールのテマセクポリテクで開催しました。

3 ソフトウェアロボットコンテスト

学生を対象とした交流事業としてソフトウェアロボットコンテストを企画しています。参加申込者は国際混成学生チームを編成し、チームでソフトウェアロボットを製作します。このために、学生は電子メールやネットミーティングを駆使しコミュニケーションを図ることが要求されます。作成したソフトウェアは、ネットワーク上に配置されたサーバーマシンへアップロードされ、サーバーコンピュータ上で競技会が実施されます。プレ大会は、今年6月から8月にかけて実施しました。本大会は11月中旬まで参加募集を行い、12月に実施予定です。

5 シンガポールに学ぶPBL

シンガポールには5校の国立のポリテク校があります。いずれもPBLを授業に積極的に取り入れており、テマセクポリテクでは教員教育のための組織も持っています。九州沖縄地区高専ではPBLを授業に積極的に取り込むことを目的として、テマセクポリテクに講師派遣を依頼し、講習会を2006年度に実施しました。この講習会は3回にわたって行われ、うち1回はシンガポールの現地開催の講習会に高専教員を派遣しました。今後は、これまでに得たノウハウを生かし九州沖縄地区の独特のPBL教育を育てて行く予定です。

6 まとめ

本稿では、シンガポールのポリテク校と九州沖縄地区高専との国際交流について包括的交流協定を締結するに至った経緯やそれに基づく交流活動について述べました。13校もの教育機関が同一の交流協定を結ぶことは、かつてなかったのではないのでしょうか。今後は、このスケールメリットを活かした交流活動を積極的に実施し、これが九州沖縄地区高専の教育のますますの高度化、グローバル化に資することになればと思います。